



隊長 白辺 史郎



隊員 広井 学



隊員 有賀 冬子



特別隊員 ニャン太

義務 先行

2

毎日やるのがいっぱいまで消化不良……。そんなあなたには「義務先行」が必要かも。



み教え調査隊とは

いつも耳にするけど、実はよく分からない——そんな「解脱用語」を調査し、教えの理解を深めるべく秘密裏に結成された特別調査チーム。毎回金剛さまの遺されたご指導を読み解き、時に取材に繰り出して、調査した結果を誌面にて報告する。

「義務先行」が

できない理由は何？



広井学 ● 前回のワークシートで、自分には家庭や職場、地域や解脱会などでの立場によって役割があつて、それぞれに自分が担っている「やるべきこと」があるんだって気づけたよ。

有賀冬子 ● 人って多面的な存在なのよね。でも、一度にうまくやるうとしたらパンクしそうだな。

白辺隊長 ● 確かにそうだね。一日

二十四時間の決まった時間の中で「義務先行」をしていくには、優先順位をつけないと、結局どれもやりきれないものだよ。それに、予定がかち合った時にどっちを優先させるかという問題もある。

有賀 ● 私だったら、基本的に先約を優先するわ。でも、後から入った予定でも、周りに迷惑が掛かってしまうような「自分以外に代わりがない時」や葬儀などの「行かないと不義理になる時」といった、その重要度によって変わるかしら。

広井 ● でもさ、「概に何が優先かは決められないこともあるよ。例えば、ある解脱会員の男性が、解脱会の役員と子供の運動会がかち合った時に役目を優先にして解脱会の予定を選んだら、家族から非難を浴びてしまったという話を聞いたことがあるし。優先順位の基準が分からないよ。有賀 ● それとも一つは、人によつ

ては、やらなくちゃいけないと感じていても「自分がやらなくても何とかなるだろう……」と、やることを徳劫(とくせき)がって避けようとしてしまうこともあるわよね。

隊長 ● その二つの問題点をどう解決するか、次頁から考えていこう！





義務を実行する際に直面しがちな問題が「優先順位のつけ方」です。どれも大切だけど、あちらを立てればこちらが立たず……どつすること
が正解なのかと頭を抱えた経験はありませんか。もちろん物事の判断に正解、不正解はつけがたいものですが、解脱の教えを学ぶ私たちがつねに照らし合わせるべき正しい基準は「大自然の法則」です。

この世界のすべては、大自然の法則ですが、全体のためになることであれば優先して行うべきです。逆に、自分が行わないことによって、周囲により損害を与えてしまう方や、より代わりがきかない方を見極めて優先して行います。こうした大局的な目で物事を見つめることが、義務の優先順位を考える上では必要です。

二つ目は「長期的視点」をもつこと。「今さえ良ければいい」と短絡的な考えで判断してしまうことは危険です。その場は収まったように思えても、所詮は問題の先送り。後にちゃんと棚卸しを余儀なくされる事態がやってくるものです。ですから、つねに先々を見据えて、後の人生により影響を及ぼす事柄を重要視する見方が大切です。例えば、わが家のことは「私事」と捉えがちですが、長期的に見れば、健全な家庭づくりは健全な国づくりであり、健全な子育てでは重要な国家的プロジェクトと

ものもとに運行しています。当たり前前に過ぎてしている私たちの生活は、大勢の見知らぬ人々の働きによって支えられています。また、私自身も与えられたさまざまな立場において懸命に役割（義務）を果たすことで、他の誰かの生活を支え、生かすことにつながっているのです。このような「共存共栄」のあり方こそ、大自然の法則に適った生き方です。

では共存共栄に向かうことを念頭に置き、私たちの生活に欠かせない「売買」を例に考えてみましょう。

私たちは何か必要なものがある時、お店で品物を購入しますが、それができるのは売ってくれるお店があるからです。一方、どれだけ品物が豊富にあっても買ってくれるお客がいなければお店はつぶれてしまいます。商売とはこの両者が立ちゆくことによって円滑にまわるもので、片側だけ儲けようとするれば決して長続きし

ないことは、行き過ぎたコスト削減による商品トラブルによって消費者の信頼を失った企業が倒産していく例からも明らかです。

金剛さまは「売買恩人」というお言葉と共に、商人もお客も互いに感謝をもつ大切さを説かれました。これはまさに共存共栄の精神であり、近江商人に伝わる「売り手よし買い手よし世間よし」という三方良しの心得にも通じます。商売に限らず、相手にも自分にも喜ばしく、社会にも貢献できることを何より優先して行うことが、先行すべき義務の基準であり、この時、重視すべきは個人の損得ではなく、「全体の利益」です。

これを踏まえると、実際に物事を判断する際に必要な二つの視点が見えてきます。

一つは「大局的視点」です。人間は誰しも、苦手なことや労力のかかることは進んでやりたくはないもの

いえるでしょう。

人生は選択の連続です。その際に、このような物事の視点を持つことがいかに大切か、ある青年部員が「義務先行」を実践した例から見ていきましょう。

青年部員Bさんの話

教区青年部長としてバリバリお使っていたBさん（三十歳・男性）は結婚二年目、このたび妻のお腹に第一子を授かりました。



子供のためにも一層力を入れて、昼は仕事、夜は青年部活動に精力的な日々を送っていたBさんでしたが、ある日、帰りを待ち構えていた妻からこんなことを告げられました。

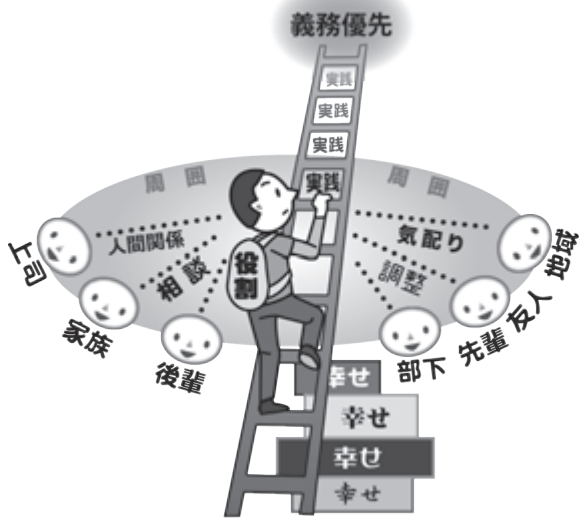
「ずっと我慢していたけど、いつも夜遅くまで青年部ばかり……少しは家のことも考えてよー！」

急に泣き出した妻に、Bさんはびっくり。彼女がそこまで思い詰めていたとは思いつかなかったのです。

「私が話をしたくて待っていて、あなたは毎晩、仕事と青年部でくたくたで帰ってきて、ろくに相手もしてくれない。今からこんなことじゃ、子供が生まれてからだって不安よー」と訴える妻に、Bさんは返す言葉もありませんでした。

「家庭はもろろん大事だけど、お役目だって大事だし……いったいどうしたらいいんだろう……？」

Bさんのように、「家庭」や「仕事」、



「お役目」などの間で悩んだ経験がある方は多いのではないのでしょうか。一人ひとり価値観や立場、環境も違う以上、一概に答えは出せませんが、Bさんは「大局的」「長期的」という二つの視点から、自分が優先すべき義務について、次のように考えました。

まず、妻のお腹に育まれているのは他の誰でもない自分の子供です。「父」として、また「夫」として、初

上手に実践☆3つのポイント

① 周囲への心遣い

優先順位を自分自身で決めたらからといって、周囲を顧みず勝手に推し進めてしまえば、共存共栄を目指しているはずが本末転倒になってしまいます。今までと変えるということは、各方面に影響が出ますから、相談・調整、いわゆる「コンセンサス（周囲と

めての妊娠に不安を抱く妻を労わり、肉体的に精神的に支えることは自分にはできない大事な役目です。また、妊娠中から生後三歳までの期間は子供の精神の基盤がつくられる重要な時期です。その時期に妻が子育てに専念できるようにサポートする役目を放棄し、家庭を妻に任せきりでいた事実は夫婦関係に後々まで溝を残すことになりかねません。

一方、青年部活動とは自分を成長

の合意が必要で。

前出のBさんであれば、「申し訳ないけれど、子供が3歳になるまでは家庭を優先したいと考えている。どうしたらいいか」と、まずは青年部の仲間と相談してみる事です。自分の想像だけで決めつけないで、「何がどこまで可能であるか」「部分的なサポートで大丈夫か」「こういう時は

しよう。大局的にみて、組織にとっても、より良い工夫が生まれ、活動が洗練されるきっかけともなります。

② 勇気を出して実践

義務を実践することの大事さが分かって、慣れないことや、面倒なこと、すぐに自分の得にならないこ

とは、誰だつてやりたくないもの。実践には思い切りが必要です。

部長のBさんにとって、相談することは他の部員に迷惑がかかる気がして言い出しにくいかもしれません。しかし、妻が相談を持ち掛けてもその場しのぎの返答でやりすごしたり、妻に無理をさせて、「分かつちやいり

けど……」「と言いながらそのままにしていたらどうなるでしょうか。大変な時に思いやってもうえなかつたことで悲しい思いをした妻の心の傷は消えず、後々まで夫婦関係に大きな禍根を残すこととなります。

そして夫に対する妻の思いが子に伝わり、それが親子関係の不和につながって、子供が将来、社会で人間関係を築いていく時に障害となることがあるのです。ですから、長期的に見ればそれほど些細なことではなく、とても

させる大切な場であり、お役目には果たすべき責任があります。しかし、誰か欠けた時にはそれを補い、代行する人がいるのが組織です。そこが、代行のきかない「父親」や「夫」と違うところです。

このように考えたBさんは、子供が三歳を迎えるまでの間、青年部にあてる時間を今までより押さえて、家庭に比重を置いた生活に変えていく選択をしたのでした。

.....
どうするか」「役を代わるほうが良いか」等、互いの幸せを思いやりながら色々な方法を模索できるといいですね。これは妻との間でも同じです。

Bさんの話し合いは、今後子育ての時期を迎える後輩部員たちにとっても、良い経験となりますし、新たに力を発揮できる仲間が出てくるかもしれません。相談してみれば予想外の解決策が出ることもあるで

重要なことです。会社で身勝手に仕事をしていたらクビになるように、気付かないうちに関係が破綻していったということにならないよう、普段から自分の役目を自覚して、実践する勇気を持ちましょう。我関せずの心持はそのまま、その関係を自ら断つことになっていきます。

③ 幸せへの積み重ね

Bさんにとって青年部も家庭も大切です。その他にも私たちは様々な役割を担い、互いに迷惑をかけ合い、助け合い支え合いながら生きています。すべてが調和するのは簡単なことではありませんし、悩むこともあるでしょう。結果としてみんなの希望通りにいかないこともあります。

しかしそんな中でも、いつも全体の幸せを念頭に、少しでも自分のできることを探せば、たった一言労わりの声を掛けることだってできます。

そしてその心遣いは伝わります。身近な生活の中から「義務先行」を実践し、経験値を増やして判断力を磨き、見識を高めてゆくことが、やがては世のため人のため、自分のため、「共存共栄全世界の平和」づくりを実現する自分自身の成長につながってゆくのです。

隊長 ●我々は日々の勤行の中で「自他の幸福を増進し」（綱領の奉唱）とお唱えしているけど、〈自我〉というところがとても大事なんだ。自分だけの幸せも、他人だけの幸せも、永遠きしないんだよ。

有賀 ●みんながそれぞれの力を活かして合って、互いに「おかげさま」と言い合える生活ができれば本当に幸せね。

隊長 ●「安心立命」の世界だね。そんな素敵な世界を実現するには、実際に体験して理解していくしかない

い。「修験実証」だね。それには思い切った嫌なことに取り組んだとしても、すぐ結果は出ないかもしれないけれど、たとえ失敗しても「これはダメだと分かった」と捉えれば糧になつてゆく。やれば一步一步着実に「義務先行」の達人に近づいていくよ。「義務先行」は幸せへの道なのだから「幸せになる達人」を目指すとも言えるね。

解説委員は一人ひとりが世の中を変えていくくらいのつもりで積極的に挑みたいよね。

広井 ●一人ひとりやれることも違えば、役目や縁も違う。だからみ教えに照らして、自ら「義務先行」を考えて練習していくしかないんだな。

隊長 ●迷った時には、信頼できる人に相談してみるのもいい。でも最後に決めて実行するのは自分だ。

有賀 ●金剛さまのように「義務先行の達人」になれたらいいわね。

金剛さまは、超・義務先行の達人

義務先行に生きた最たる人と言えは金剛さまです。それはご事績をみると明らかです。

例えば終戦後、膨大な量の軍保管物資が備蓄されていることを知った金剛さまは、それを大量に払い下げてもらい、加工品の原料として各地に立ち上げた授産所に送りました。

授産所では、引揚者や戦争未亡人を働き手としてそこから衣料品を大量に生産し、安い価格で販売させました。

この活動を通して、多くの人が安く衣料品を手にすることができ、また引揚者や戦争未亡人、さらにその家族が売上金で生活する基盤を立てることができたのです。

こうしたことは本来、政府などの公

の機関が企業に指導して行うものです。しかし、一民間人であった金剛さまは、その大仕事を「自分の務め」として実行されました。この他に取り組まれた、モール編みの講習会や「ウナ

（巻目の一種）の肥料作りとその配布、航空機献金などの奉献金活動、靖國神社社頭対面遺児慰問も同様です。

また実業家から宗教家へ身を転じられて以降、金剛さまは神から授かった御五法をもって御祭神札や諸札の謹製をされ、天茶供養や御五法修業などの信仰行、さらには勤行法則を整えられ、ご遷化されるまで個人指導を続けられました。こうした活動のすべてを自分の務めとして行われた金剛さまの原動力は、国民一人ひとりが幸せになり、日本の繁栄を実現するとの願いにありました。そのご人生は、その願いを果たすことを務めとする義務先行そのものであったと拝察されます。

義務先行は最高道徳へ続く道

義務先行の根本は、自分で考え、実践するという自発的・主体的な姿勢にあります。しかしながらボランティア活動のように集団で行う場合は全体の統制が必要であり、十一月号の依頼の手紙のように、思いと違う活動を行わざるをえないことは多々あることです。

参加者の思いを一つにして、その活動を喜びあるものにするか否かは、リーダーの姿勢にあります。理想的なリーダーは奉献金活動などにおける金剛さまの姿に見ることが出来ます。具体的には、①本当にやるべきことなのかをよく吟味する。②自らが実践する。③周囲が自発的に行うように意義を伝える。強要ではなく促す、共感させる姿勢。④賛同がない場合は自分だけでも行う腹積もりを持つ、ことです。つまり善

いこと（義務）であれば、それを周囲に呼びかけ、共感した仲間と黙々と行うことです。

青年部活動は活動を通して、太陽の心で奉仕できる人となるところに大きな目的があります。その指示が納得できなかつたら、その疑問を先輩に尋ねることも必要です。自分を磨くものと受け取れるなら、どんなことでも進んで行えるはず。また先輩は、質問に対して意義・目的を十分に伝える必要があります。

義務先行とは、自分に利益がないことでも、あるいは苦手なことでも嫌いなことでも、「なすべきことは行うこと」。また自分にとって利益になることでも、あるいは好きなことでも、「行つてはいけないことは行わないこと」です。

教えの基本である「自想」も、一人歩みのできる人も、最高道徳の実践も、こうした義務先行の中にあります。義務先行に励みましょう。